日本ライフライン株式会社

2007 年 3 月期決算説明会資料解説

本解説は、決算説明会資料の補足説明を目的としており、決算説明会の議事や発言をそのまま記録したものではありません。
また、本解説の記載内容のうち、歴史的事実ではない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響をうけますので、これらの予測へ過度に依存されないようお願いします。

日本ライフライン株式会社

2007年3月期決算説明会

2007年5月29日

... for patient comfort.

＜説明会開催概要＞
■開催日時;2007年5月29日　10:00～10:40
■会　　場;日本証券アナリスト協会会議室
■参 加 者;証券アナリスト、機関投資家等約30名
■発表内容;
(1)「2007年3月期決算および2008年3月期通期業績予想」
・・・取締役管理本部長　政次　浩二
(2)「課題と展望」・・・代表取締役社長　鈴木　啓介

2007年3月期決算報告
2008年3月期業績予想

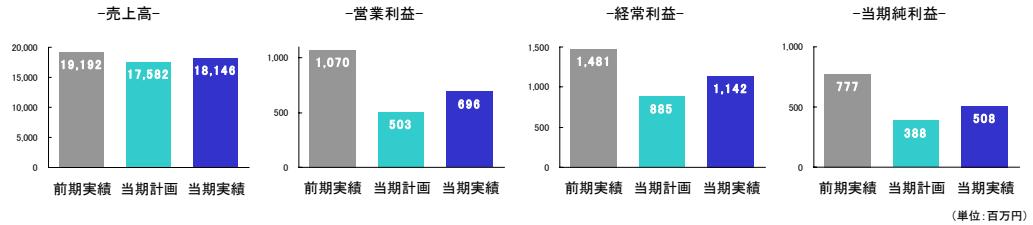
取締役管理本部長
政次　浩二

2007年5月29日

日本ライフライン株式会社

2007年3月期業績

（単位：百万円）	2007/3 実績	2007/3 計画	計画比 増減額	計画比 増減率	2006/3 実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	18,146	17,582	563	3.2%	19,192	△1,046	△5.5%
営業利益	696	503	192	38.2%	1,070	△373	△34.9%
経常利益	1,142	885	257	29.0%	1,481	△338	△22.9%
当期純利益	508	388	120	31.0%	777	△269	△34.6%



（単位：百万円）

2007年5月29日　3　日本ライフライン株式会社

2007年3月期の当社業績に大きな影響を与えた要因として以下の2点があります。

①保険償還価格の改定
昨年4月および今年の1月の2度にわたり、医療機器の公定価格である保険償還価格が引き下げられました。
特に、昨年4月の引き下げにおいては、当社が取り扱っておりますほぼ全ての商品が、価格引き下げの対象となり、引き下げ幅が大きい商品においては販売数量の増加でその影響をカバーしきれないものもありました。

②商品の一部自主回収
当社の主力であるリズムディバイスにおいて、昨年6月に、ペースメーカおよびICDの両商品を一部自主回収いたしました。
国内において患者さんに健康被害は発生しておりませんものの、商品の安全性を懸念された一部施設において買い控えが発生し、かつ予想以上に長引いたため、大きなマイナス要因となりました。

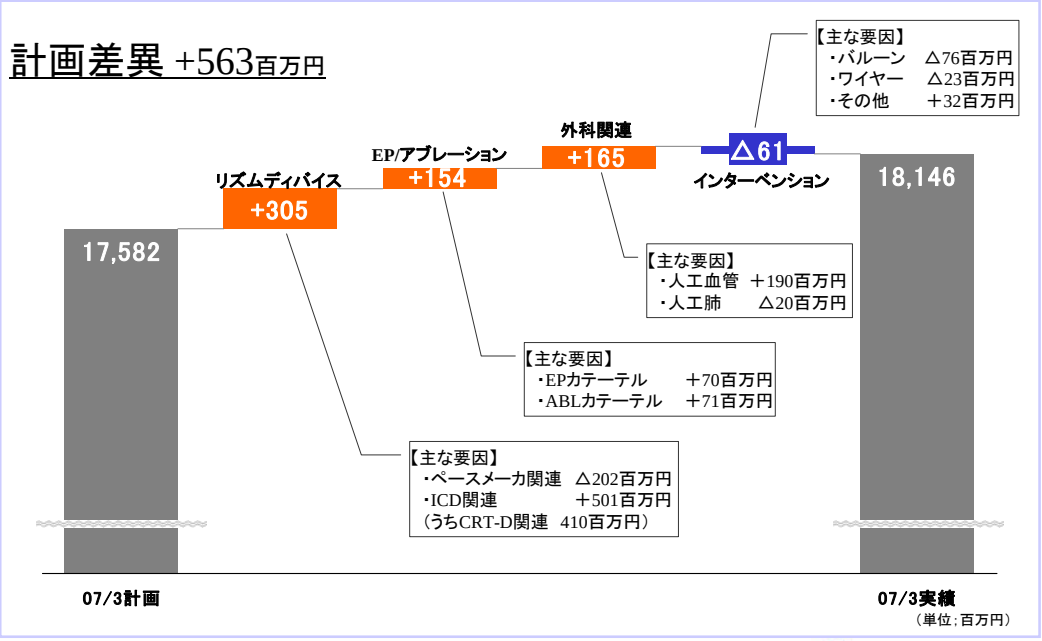
◆売上高
売上高は、計画を563百万円（3.2%）上回りましたが、リズムディバイスが不振であったことが大きく影響し、前年同期に対しては1,046百万円（5.5%）のマイナスとなりました。

◆営業利益
営業利益につきましても、計画を192百万円（38.2%）上回りましたが、保険償還価格の引き下げにより売上総利益率が低下したことから、前年同期に対しては373百万円（34.9%）のマイナスとなりました。

◆経常利益
経常利益は、営業外収益として受取保険金を3億1千3百万円、為替差益を7千4百万円計上したことから、計画を257百万円（29.0%）上回る結果となりました。なお、為替差益は通貨スワップの評価益でありますが、海外からの商品仕入れのほとんどが円建ての決裁となったため、通貨スワップの契約を解除いたしております。

◆当期純利益
当期純利益は、特別利益として投資有価証券売却益を1億8百万円計上したこと等から計画を120百万円（31.0%）上回る結果となりました。

計画差異要因－売上高



2007年5月29日　4　日本ライフライン株式会社

◆リズムディバイス
当社の主力であるペースメーカ関連が、保険償還価格の引き下げが機種によっては約15%と大幅であったことに加え、商品回収の影響を受け、計画を202百万円（2.6%）下回りました。
ICD関連では、本年1月に発売を開始した心不全治療用のニューディバイスであるCRT-Dが4億1千万円の売上高となりました。このことが大きく寄与し、ICD関連は計画比501百万円（8.2%）のプラスとなりました。
以上のことから、リズムディバイスの売上高は9,261百万円となり、計画を305百万円（3.4%）上回りましたが、前年比では1,747百万円（15.9%）のマイナスとなりました。

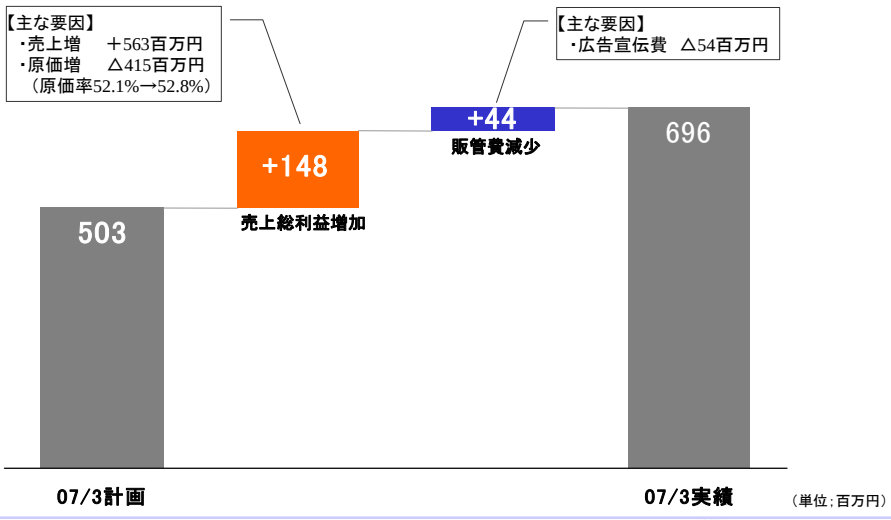
◆EP/アブレーション
自社製品である、EP/アブレーションは好調に推移し、ともに計画を約70百万円上回る結果となっており、前年実績に対しましても、EPカテーテルが46.3%増、アブレーションカテーテルが22.4%増となっております。
以上のことから、EP/アブレーションは2,644百万円となり、計画を154百万円（6.2%）上回り、前年実績に対しても609百万円（29.9%）増となっております。

◆外科関連
外科関連につきましては、人工血管が、昨年4月および今年1月の2回の保険償還価格引き下げがありましたものの、販売数量を大きく伸ばした結果、計画を190百万円（7.6%）上回りました。また、人工肺関連におきましては、前年実績に対しては12百万円（2.6%）増となりましたが、計画を下回る結果となりました。
以上のことから、外科関連は4,261百万円となり、計画を165百万円（4.0%）上回り、前年実績に対しては7百万円（0.2%）プラスとなりました。

◆インターベンション
インターベンションでは、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーともに数量ベースではともに前期以上の結果となっておりますが、保険償還価格引き下げの影響を吸収するまでには及びませんでした。
一方、この4月に保険適用となり治療数が増加しているアンプラッツァーは計画通りに推移し、また、「その他」に区分されておりますフィルトラップが第4Qに発売され、好調に推移いたしました。
以上のことから、インターベンションは1,978百万円となり、計画を61百万円（3.0%）下回りましたが、前年実績に対しては84百万円（4.4%）のプラスとなりました。

計画差異要因ー営業利益

計画差異　+192百万円



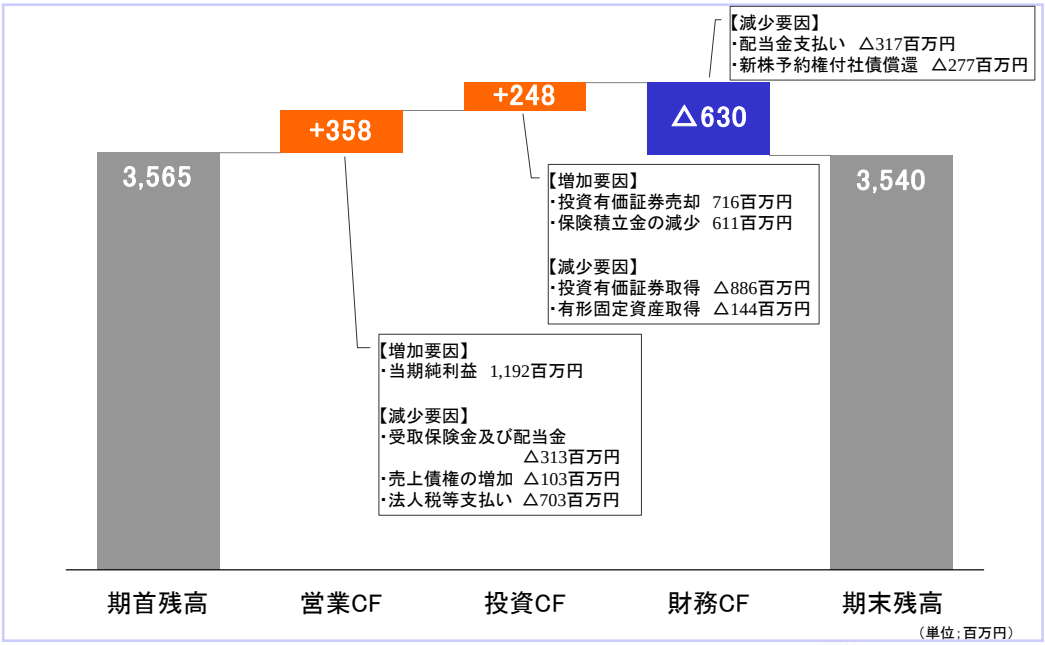
2007年5月29日　5　日本ライフライン株式会社

◆営業利益
営業利益は、売上増に伴い売上総利益が計画を148百万円（1.8%）上回ったことに加え、販管費が44百万円（3.9%）計画を下回ったことから、計画を192百万円（38.2%）上回る696百万円となりました。

◆原価率
原価率が52.8%と計画に比べ0.7%上昇しておりますが、これは粗利率が若干低いCRT-Dの売上が想定以上に大きくなったことによります。

◆販管費
販管費は、商品発売時期の遅れにより広告宣伝費が計画を54百万円下回ったことから計画を下回っております。

2007年3月期実績ーキャッシュ・フローー

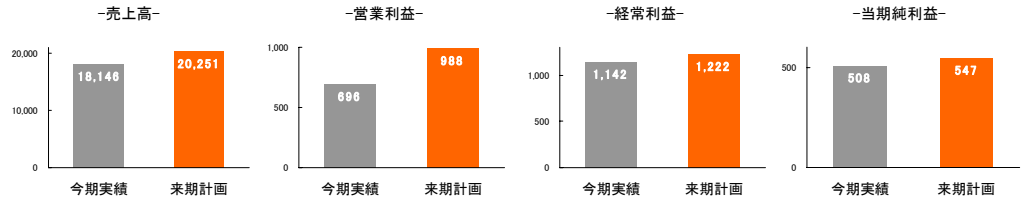


◆投資CF
事業保険の解約により保険積立金の減少として611百万円のキャッシュインがありました。

◆財務CF
本年1月に新株予約権付社債の未行使残高を全額償還したことから277百万円のキャッシュアウトがありました。

2008年3月期計画

（単位：百万円）	2008/3計画 金額	2008/3計画 構成比	2007/3実績 金額	2007/3実績 構成比	差異 増減額	差異 増減率
売上高	20,251	100.0%	18,146	100.0%	2,105	11.6%
営業利益	988	4.9%	696	3.8%	292	42.0%
経常利益	1,222	6.0%	1,142	6.3%	80	7.0%
当期純利益	547	2.7%	508	2.8%	39	7.7%



（単位：百万円）

2007年5月29日　7　日本ライフライン株式会社

2008年3月期の業績見込に大きく影響する要因として以下の2点があります。

①保険償還価格の改定
本年4月に人工血管等の一部商品における保険償還価格の引き下げがありますが、対象はごく一部の商品だけにとどまるため、全般的に売上数量増がダイレクトに売上高の増加につながります。

②リズムディバイスの回復
新商品の発売等もあり、リズムディバイスの売上高が大きく回復するものと見込んでおります。

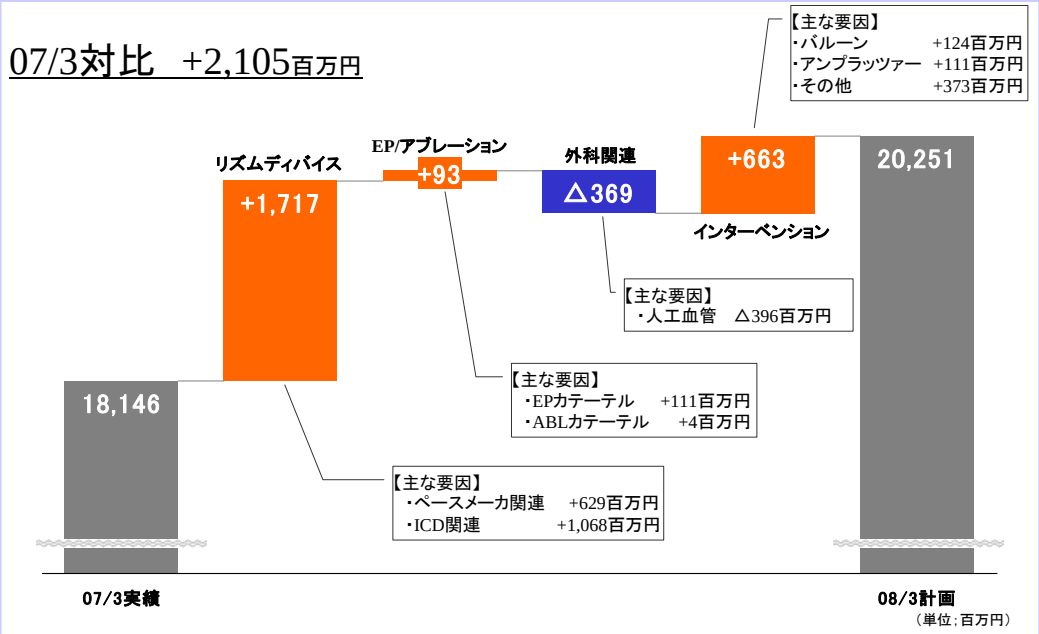
◆売上高
売上高は、リズムディバイスの売上回復が寄与し今期比2,105百万円（11.6%）増の20,251百万円を見込んでおります。

◆営業利益
営業利益は、粗利率は低下するものの、販管費率が改善することから、今期比292百万円（42.0%）増の988百万円を見込んでおります。

◆経常利益
経常利益は、営業外収益として受取保険金等で255百万円の計上を予定していることから今期比80百万円（7.0%）増の1,222百万円を見込んでおります。

◆当期純利益
当期純利益は、特別利益、時別損失ともに大きなものは発生する予定がありませんので、今期比39百万円（7.7%）増の547百万円を見込んでおります。

2008年3月期計画－売上高



◆リズムディバイス
ペースメーカのシェア回復によりペースメーカ関連が今期比629百万円（8.3%）増となることに加え、CRT-Dが通期で寄与することから、ICD関連で今期比1,068百万円（66.7%）増を見込んでおります。
以上のことから、リズムディバイスは今期比1,717百万円（18.5%）増の10,978百万円を計画しております。

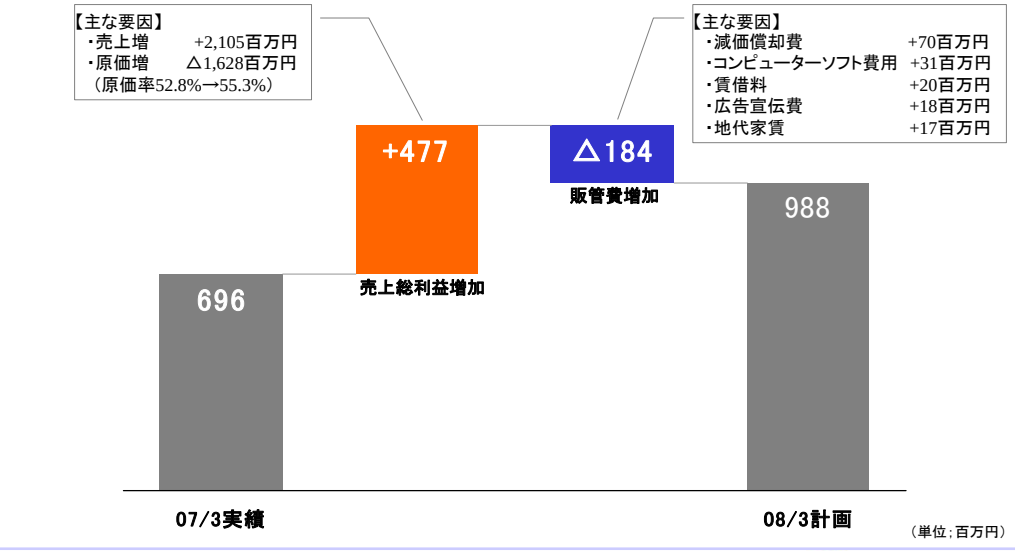
◆EP/アブレーション
EPカテーテルでは新商品の発売が予定されていること等から今期比111百万円（10.1%）増を計画しております。アブレーションカテーテルにつきましては、既にトップシェアを獲得しており、他社との競争の激化も予想されることから、ほぼ今期比フラットを見込んでおります。
以上のことから、EP/アブレーションは、今期比93百万円（3.6%）増の2,738百万円を計画しております。

◆外科関連
人工血管におきまして今期比396百万円（14.7%）のマイナスを見込んでおります。
これは、保険償還価格が昨年4月、今年1月、さらに今年4月と3回の改定で25%の引き下げとなったことが影響しております。
以上のことから、外科関連は、今期比369百万円（8.7%）減の3,892百万円を見込んでおります。

◆インターベンション
インターベンションでは、商品ラインナップが充実してきたことから、販売面での相乗効果も期待でき、バルーンカテーテルやガイドワイヤーといった既存商品も含め、全般的に売上増が見込まれます。
昨年4月に保険適用となり販売が本格化した、先天性の心疾患を治療するディバイスであるアンプラッツァー・セプタルオクルーダーにおきましては、さらに症例数の増加が見込まれますので、今期比111万円（56.2%）増を計画しております。
また、「その他」では、フィルトラップが通期で寄与し、前期比319百万円増となることを見込んでおります。
以上のことから、インターベンションは、今期比663百万円（33.5%）増の2,642百万円を計画しております。

2008年3月期計画ー営業利益

07/3対比　+292百万円



2007年5月29日　9　日本ライフライン株式会社

◆営業利益
営業利益は、売上の増加に伴い売上総利益が今期比477百万円（5.6%）増加するものの、販管費も今期に比べ184百万円（2.3%）増加することから、最終的に今期比292百万円（42.0%）増の988百万円を見込んでおります。

◆原価率
原価率の上昇につきましては、平均よりも原価率が高めであるICD関連の売上が増加することが影響しております。

補足データ

（単位：百万円）	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3（予）
設備投資額	190	173	271	144	217
減価償却費	278	223	211	150	221
研究開発費	110	151	257	202	227
期末従業員数	328名	346名	364名	370名	401名

（資料）要約損益計算書

（単位：百万円）	2007/3実績				2008/3（予）					
	中間期		通　期		中間期			通　期		
	金　額	構成比	金　額	構成比	金　額	構成比	前期比	金　額	構成比	前期比
売　上　高	8,701	100.0%	18,146	100.0%	9,944	100.0%	14.3%	20,251	100.0%	11.6%
売上原価	4,617	53.1%	9,575	52.8%	5,562	55.9%	20.5%	11,203	55.3%	17.0%
売上総利益	4,083	46.9%	8,570	47.2%	4,381	44.1%	7.3%	9,047	44.7%	5.6%
販　管　費	3,820	43.9%	7,874	43.4%	4,048	40.7%	6.0%	8,059	39.8%	2.3%
営業利益	263	3.0%	696	3.8%	332	3.3%	26.1%	988	4.9%	42.0%
営業外収益	326	3.8%	467	2.6%	231	2.3%	△29.2%	255	1.3%	△45.3%
営業外費用	12	0.1%	21	0.1%	10	0.1%	△12.1%	21	0.1%	1.2%
経常利益	577	6.6%	1,142	6.3%	552	5.6%	△4.3%	1,222	6.0%	7.0%
特別利益	36	0.4%	111	0.6%	―	―%	―%	―	―%	―%
特別損失	23	0.3%	61	0.3%	10	0.1%	△55.0%	10	0.1%	△82.2%
税前利益	590	6.8%	1,192	6.6%	542	5.5%	△8.1%	1,211	6.0%	1.6%
法人税等	318	3.7%	684	3.8%	293	3.0%	△7.8%	664	3.3%	△3.0%
純　利　益	271	3.1%	508	2.8%	248	2.5%	△8.5%	547	2.7%	7.7%

（資料）セグメント別売上高

（単位：百万円）	2007/3実績		2008/3（予）				備考
	中間	通期	中間		通期		
	金額	金額	金額	前期比	金額	前期比	
ペースメーカ関連	3,859	7,609	4,118	6.7%	8,238	8.3%	
ICD関連	591	1,601	1,294	118.8%	2,670	66.7%	CRT-D含む
その他	24	50	34	39.3%	69	38.6%	
リズムディバイス計	4,475	9,261	5,446	21.7%	10,978	18.5%	
EPカテーテル	535	1,099	584	9.1%	1,211	10.1%	自社製造製品
ABLカテーテル	703	1,468	734	4.4%	1,472	0.3%	自社製造製品
その他	36	76	27	△24.4%	54	△28.9%	
EP/ABL計	1,274	2,644	1,345	5.6%	2,738	3.6%	
人工弁	538	1,063	534	△0.7%	1,102	3.6%	
人工肺関連	260	492	231	△11.3%	482	△2.0%	
人工血管	1,245	2,704	1,103	△11.4%	2,307	△14.7%	
その他	0	1	―	―%	―	―%	
外科関連計	2,045	4,261	1,869	△8.6%	3,892	△8.7%	
バルーン	586	1,183	640	9.2%	1,308	10.5%	
ガイドワイヤー	216	448	244	13.0%	501	12.0%	自社製造製品
アンプラッツァー	71	197	145	101.8%	309	56.2%	
その他	30	149	251	718.5%	522	250.9%	フィルトラップ含む
インターベンション計	905	1,978	1,281	41.5%	2,642	33.5%	
合計	8,701	18,146	9,944	14.3%	20,251	11.6%	

課題と展望

代表取締役社長
鈴木　啓介

2007年5月29日

日本ライフライン株式会社

中長期の課題

◆リズムディバイスの売上拡大

ー収益基盤の安定化

◆自社製造製品の拡充

ー自社製品比率20%

ー利益面での寄与

◆商品パイプラインの確保

ー継続的な新商品投入

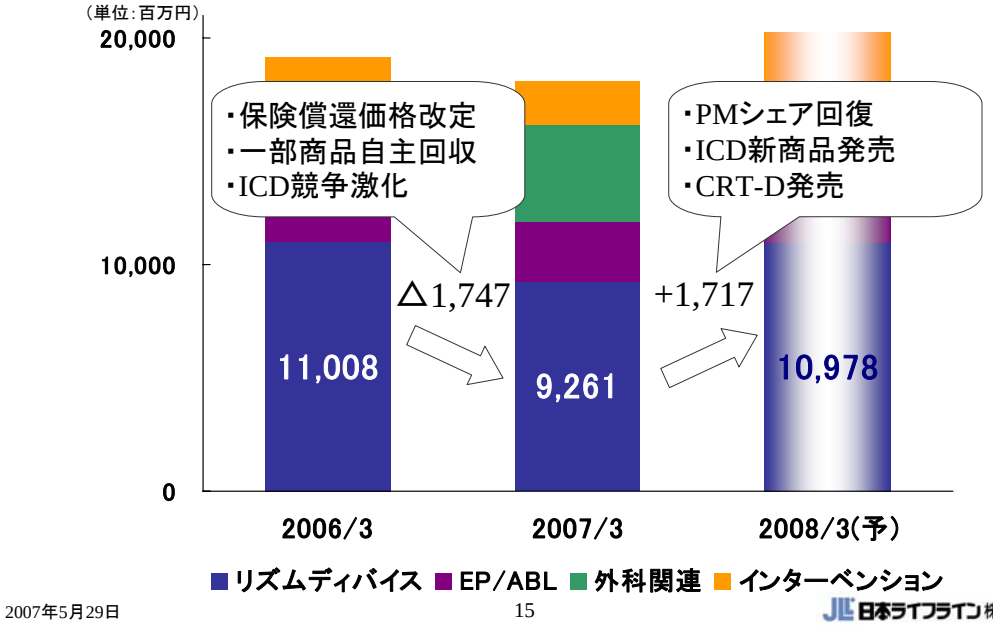
ーオンリーワン商品による他社との差別化

◆リズムディバイスの売上拡大
リズムディバイスの売上高は全社売上高の約50%を占めるため、当社の業績に与える影響は大きなものとなります。今後、当社が持続的に成長していくためには、まず基盤であるリズムディバイスの業績を安定的に成長させることが不可欠です。

◆自社製造製品の拡充
保険償還価格の引き下げ等により商品単価が下落傾向にある中、粗利率が他社仕入れ商品を上回る自社製造製品の売上高比率を中長期的には20%にすることを目標としております。

◆商品パイプラインの確保
他社との差別化を図ることができるオンリーワン商品や、新たな市場を開拓できるニューディバイスを継続的に投入していくことが今後成長を持続していく上では重要となってきます。

リズムディバイスの売上拡大(1)



2007年5月29日

15

日本ライフライン株式会社

2008年3月期は、2006年3月期と同水準までリズムディバイスの売上が回復することを見込んでおります。

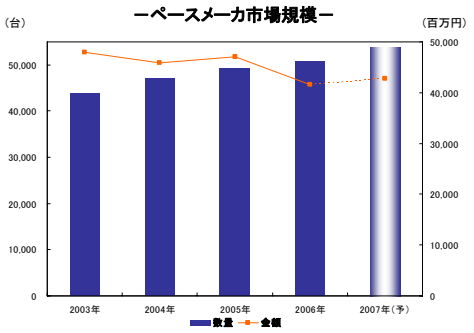
リズムディバイスの売上拡大(2)

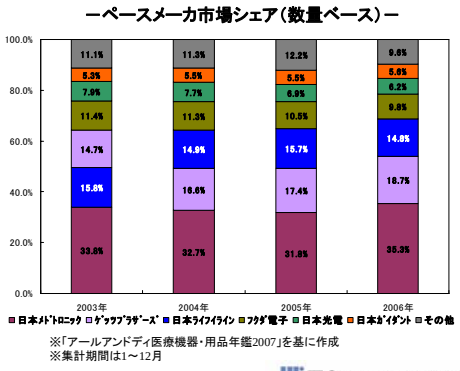
◆ペースメーカのシェア回復

－商品自主回収(昨年6月)の影響も終息へ

－信頼回復からシェア回復へ営業強化

－市場は毎年3～4%にて成長見込(数量ベース)





※「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成

※集計期間は1～12月

ペースメーカについては、商品自主回収の影響も終息に向かうものと思われますので、市場の伸びに加え、これまでに失ったシェア回復により売上増加を図ります。

リズムディバイスの売上拡大(3)

◆ICD関連商品の投入

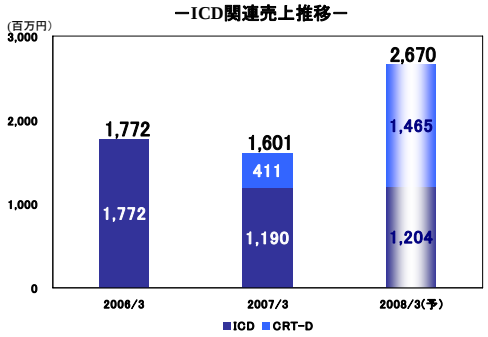
－ICD新商品「バイタリティ」を本年3月発売

・新商品でシェア回復

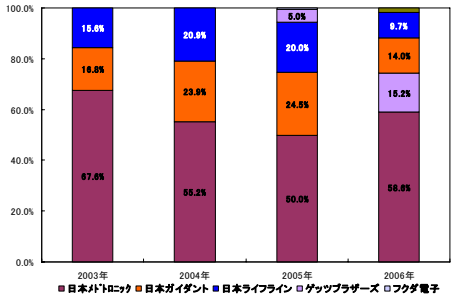
（従来より小型化　厚さ:12㎜→11㎜、容積:32cc→30cc）

－CRT-D「コンタック・リニューアル4」を本年1月本格発売

－ICD関連売上推移－



－ICD市場シェア(数量ベース)－



※「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

2007年5月29日

17

日本ライフライン株式会社

新規参入により苦戦していたICDについては新商品発売を機にシェア回復を図っていきます。また、心不全治療用のニューディバイスであるCRT-Dについても高い需要が見込まれますので、リズムディバイスの業績回復に大きく寄与します。

自社製造製品の拡充(1)

◆売上状況

【2007/3実績】

ー売上高　3,042百万円(前期比28.5%増)

ー自社製品比率　16.8%

【2008/3計画】

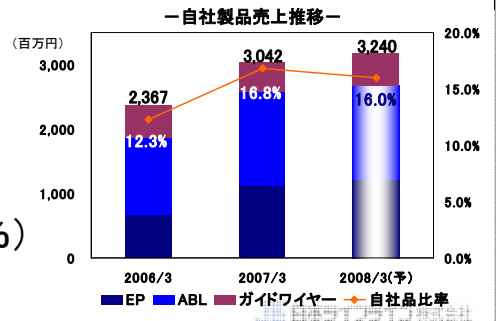
ー売上高　3,240百万円(今期比6.5%増)

ー自社製品比率　16.0%

◆利益率

ー粗利　自社製品 58.6%

(他社仕入れ商品 44.9%)



2007年5月29日

18

2008年3月期におきましても、自社製造製品の売上は増加を見込んでおりますが、2007年3月期に不振であったリズムディバイスの売上回復が見込まれるため、全社売上高に占める比率は若干低下します。

自社製造製品の拡充(2)

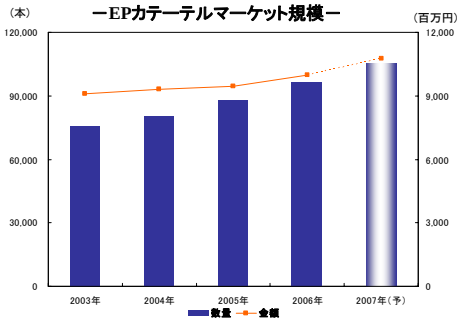
◆EP(電気生理用)カテーテル<不整脈の検査用カテーテル>

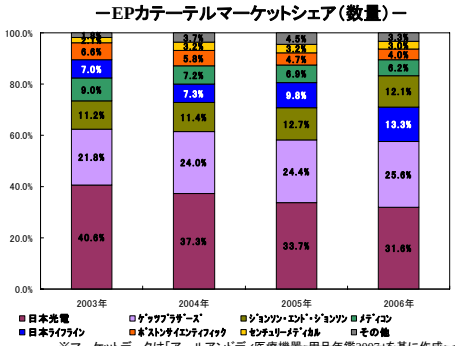
－好調に推移　07/3実績:1,099百万円(前期比46.3%増)

－新製品「EPスターリベロ」を発売(本年6月予定)

アブレーション治療の際に使用(PVマッピング用)

→トップシェアのアブレーションカテーテルとの相乗効果





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

2007年5月29日

19

当社のアブレーションカテーテルが強みを持つ心房細動治療において使用されるタイプのEPカテーテルの発売が予定されており、一層の売上増が見込まれます。

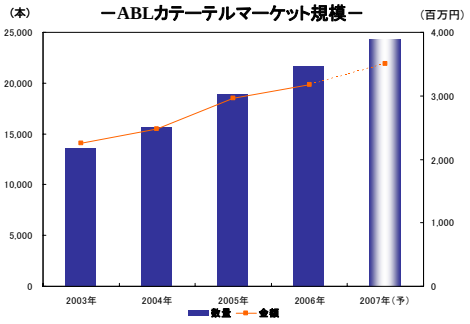
自社製造製品の拡充(3)

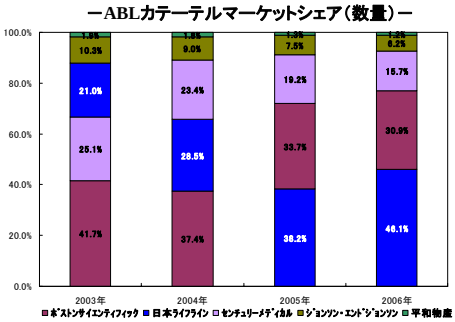
◆アブレーションカテーテル<不整脈(頻脈)の治療用カテーテル>

ートップシェアを維持　07/3実績:1,468百万円(前期比22.4%増)

ー心房細動等の従来薬剤による治療分野への適応も拡大

→引き続きマーケットは成長傾向





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

2007年5月29日

現在市場シェア1位となっているため、従来に比べると成長率はやや鈍化するものの、市場自体の伸びもあることから、今後も市場ニーズに適った製品開発ときめ細やかな営業活動により、成長を図ります。

自社製造製品の拡充(4)

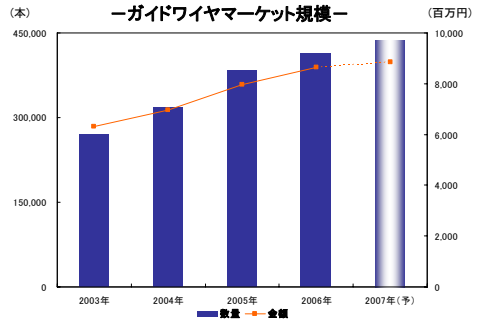
◆PTCAガイドワイヤー

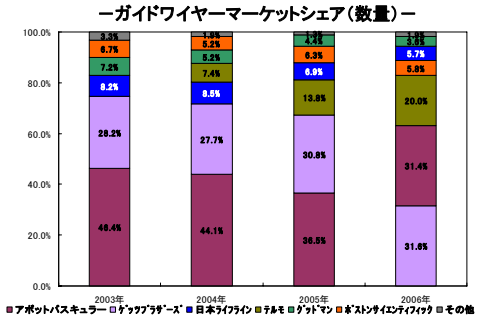
－新製品「アスリート・イール」を昨年10月に発売

－関連商品のラインナップ充実

＜バルーンカテーテル、マイクロカテーテル、フィルトラップ＞

→シナジー効果による拡販





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

2007年5月29日

競争環境が厳しい状況にありますが、新商品の投入や、インターベンション関連商品のラインナップが充実してきたこともあり、シェア回復に向けて着実に取り組んでいきます。

商品パイプラインの確保（1）

◆新商品の寄与

商　品	07/3売上実績	08/3動向
CRT-D	411百万円	本年1月発売→通期で寄与
アンプラッツァー	197百万円	治療施設数の増加
フィルトラップ	70百万円	本年1月発売→通期で寄与

【共通点】
－他社と競合しない（競合が少ない）
－今後も需要の増加が見込まれる

CRT-D、フィルトラップは2007年3月期中の発売開始のため、2008年3月期には通期で業績への寄与が見込まれます。また、アンプラッツァーについては、引き続き治療施設数の増加に伴い、症例数の増加が見込まれます。

CRT-Dは参入企業数が3社のみ（メーカー数は2社）であり、アンプラッツァーについては当社のみの販売となっております。フィルトラップにつきましても、その製品特長から他製品との差別化が図られております。

商品パイプラインの確保（2）

◆アンプラッツァー・セプタルオクルーダー（AGA Medical製）

<心房中隔欠損閉鎖器具>



－治療施設数の増加に伴い症例数も増加

－同社製の先天性疾患治療ディバイスを引き続き国内に導入予定

◆フィルトラップ（ニプロ社製）

<血栓異物除去用カテーテル>



－血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去

－バスケットがフィルター型のため血流を確保できる点が特長

商品パイプラインの確保(3)

【当社の強み】
- 循環器領域における高い販売力
- 全国の医療現場とのネットワーク(ニーズ・情報が集積)

当社の強みを活かし、下記のようなニーズがあるメーカーと販売のみにとどまらない協力関係を構築

【国内外メーカーのニーズ】
- 優れた製品を持っているので日本で販売を行いたい
- 循環器領域での販売を拡充したい
- 技術力はあるので治験等をスムーズに進めたい

（参　考）会　社　概　要

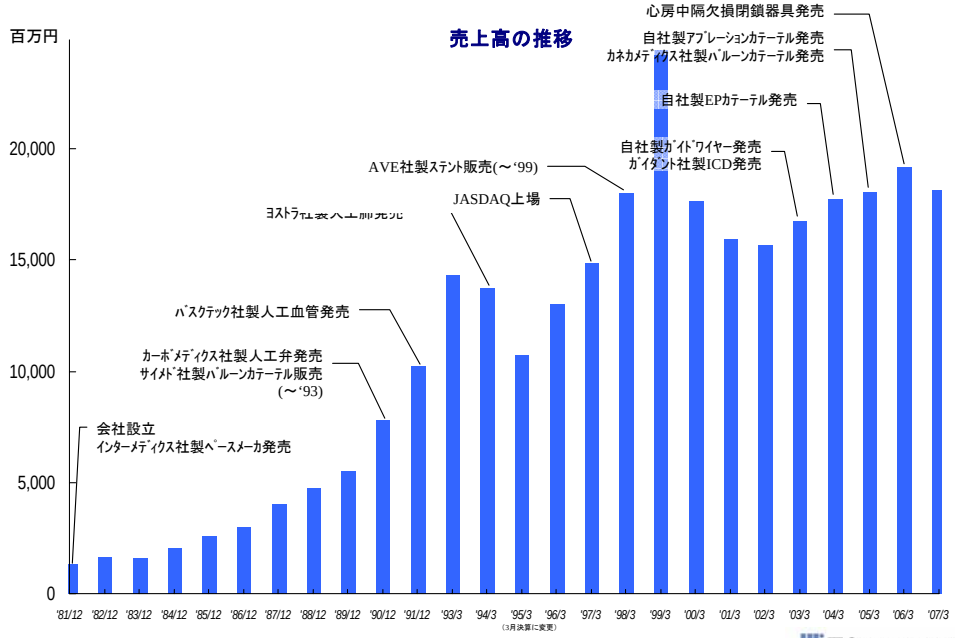
2007年5月29日

日本ライフライン株式会社

会社概要

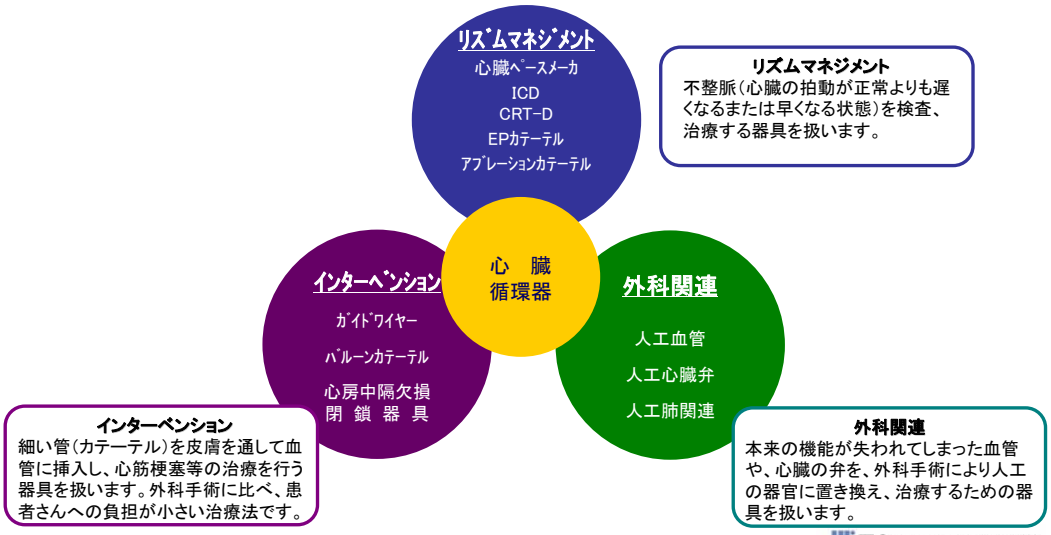
【商　　号】日本ライフライン株式会社
【代 表 者】代表取締役社長　鈴木　啓介
【本　　社】東京都豊島区池袋2-38-1
【設　　立】1981年2月6日
【上　　場】1997年12月8日（JASDAQ）
【証券コード】7575
【事業内容】医療機器の輸入、製造および販売
【資 本 金】2,115百万円
【従業員数】370名（2007年3月31日現在）
【事 業 所】営業所（25）、出張所（2）、商品センター
　　リサーチセンター、浮間ファクトリー

沿革


売上高の推移
百万円
20,000
15,000
10,000
5,000
0
心房中隔欠損閉鎖器具発売
自社製ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
ｶﾈｶﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製EPｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ発売
ｶﾞｲﾀﾞﾝﾄ社製ICD発売
AVE社製ｽﾃﾝﾄ販売(～'99)
JASDAQ上場
ﾊﾞｽｸﾃｯｸ社製人工血管発売
ｶｰﾎﾞﾒﾃﾞｨｸｽ社製人工弁発売
ｻｲﾒﾄﾞ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ販売
(～'93)
会社設立
ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾍﾟｰｽﾒｰｶ発売
'81/12 '82/12 '83/12 '84/12 '85/12 '86/12 '87/12 '88/12 '89/12 '90/12 '91/12 '93/3 '94/3 '95/3 '96/3 '97/3 '98/3 '99/3 '00/3 '01/3 '02/3 '03/3 '04/3 '05/3 '06/3 '07/3
(3月決算に変更)

事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムマネジメント、インターベンション、外科関連の3つに大別されます。



リズムマネジメント
不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を検査、治療する器具を扱います。

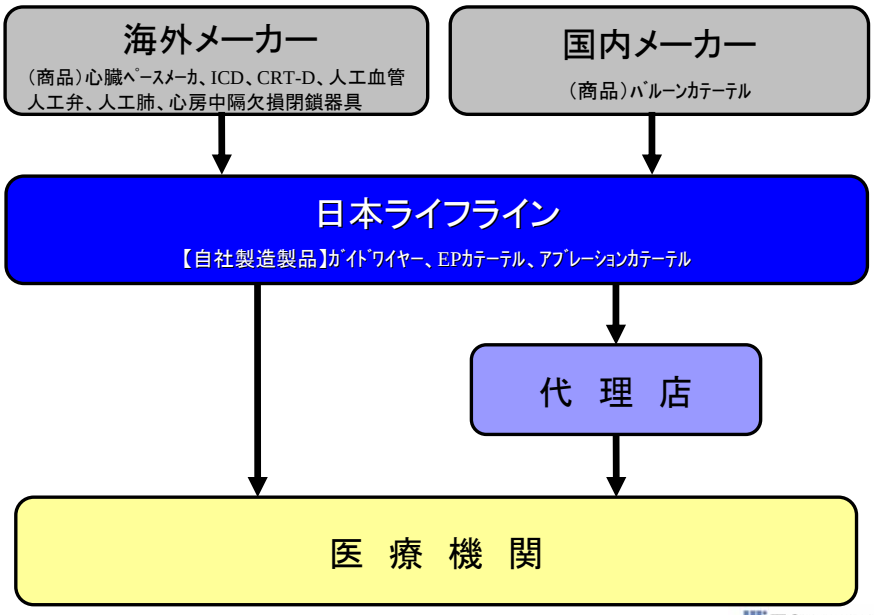
インターベンション
細い管（カテーテル）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

外科関連
本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

2007年5月29日

日本ライフライン株式会社

商品の流通経路


海外メーカー
（商品）心臓ﾍﾟｰｽﾒｰｶ、ICD、CRT-D、人工血管
人工弁、人工肺、心房中隔欠損閉鎖器具
国内メーカー
（商品）ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ
日本ライフライン
【自社製造製品】ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ、EPｶﾃｰﾃﾙ、ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ
代　理　店
医　療　機　関

商品紹介ーリズムマネジメント



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓ペースメーカ

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD（植込み型除細動器）

アブレーションカテーテル



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。

EP（電気生理用）カテーテル



不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

商品紹介－インターベンション



バルーンカテーテル

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



先端イメージ図

ガイドワイヤー



心房中隔欠損閉鎖器具

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）をカテーテルを用いて治療します。

従来の治療方法である外科手術に比べ、患者さんの身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。

商品紹介ー外科関連



人工心臓弁

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。



人工血管

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。

人工弁付血管



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

人工肺



心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。

■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画室　山田
電話　03-3590-1618
Mail　ir@japanlifeline.com
URL　http://www.jll.co.jp

... for patient comfort.